

ブラジル岩手県人会発・サッカーW杯便り ①

この企画は 母県の岩手日報社の企画で、6回にわたり数人から情報を頂き掲載されました。

ブラジル県人会発



①

サッカーW杯便り



千田曠暁さん

ちだ ひろあき 57年9月、16歳のときに家族とブラジルへ移住。3年間の農業経験の後、46年間クリーニング業に従事した。現役を引退した後は、ブラジル県人会の事務、管理などを手伝い、98年から同県人会長。妻照子さん(72)と2人暮らし。サンパウロ市在住。73歳。金ヶ崎町出身。

サッカーのワールドカップ(W杯)は12日、地ブラジル・サンパウロは、大会を直前に控

大会連続5度目の出場となる日本は1次リーグを突破し、決勝トーナメント進出なるか。国内外の注目が集まる。7月13日までの期間中、ブラジル県人会(千田曠暁会長)の協力を得て、現地の生の情報を毎週日曜日付で紹介する。

日本人受け入れ態勢

緊急医療支援はサンパウロ日伯援護協会、緊急宿泊支援はブラジル日本都道府県人会連合会、ビジネス経済情報はブラジル日本商工会議所など、あらゆる団体が協力して日本戦の応援観戦会を計画。宮城県人も日本戦の観戦会を行う予定だ。

各種団体の準備着々

当県会にも、8日に日本選手団がサンパウロから約100キロ離れたソロカバ市営球場で行う練習見学の案内が来た。日本選手団が宿泊するイトゥー市内のホテルはいまだ突貫工事が続いており、大会まで間に合うのか心配だが、せつかくの晴れ舞台。母国チームの躍進を祈らずにはられない。

市民…。最近では、デモ隊が中心街だけでなく、近郊の街でバスやトラックを焼き打ちしているにもかかわらず、いまひとつ盛り上がりを見せていない。政治への不安、会場周辺の整備の遅れ、「大金を投じてのW杯はいろいろな関連商品が数多く並んでいるが、売れ行きは



サッカーファンなのか、全身をブラジル応援グッズで身を包んだ男性



露天で販売されているサッカーW杯関連グッズ。カラフルなブラジル国旗やウエアが並ぶが、売れ行きはいまひとつ。大会開幕後の盛り上がり期待したい

(談)

えてとの事で、考査し寄稿或いは談話に諸情報を加え、日報社で話題や字数など編集して頂く事で了解を得て、寄稿が始まった。県人会として在住県人会から母県の皆様に現地の情報提供により、ブラジル県人会と岩手の「新たな交流」になれると思いつつ。

ブラジル県人会発
サッカーW杯便り②



多田孝則
マウロさん

ただ たかのり まつる 日
系3世。父登(のぼり)さんは
40年に4歳で現・遠野市宮守町
からブラジルに渡り、サンパウ
ロから約700km離れたペレイ
ラレット市の日系集団地に移

住した。85年県費研修生として
本県で電気工学を研修後、サン
パウロ市に在住し電話局の電気
系技師を務める。ブラジル県人
会副会長。妻、大学生の長男、
次男と4人暮らし。50歳。

待望のサッカーワーラのサポーター、日本
ルドカップ(W杯)ブ 企業の出向社員家族、
ラジル大会は12日(日 地元在住の日系人で埋
本時間13日)開幕した。 まり、さわやかな秋晴
これに先立ち、日本選 の下、盛んに声援を
手団は、サンパウロか 送った。日本選手団を
ら約100km離れたキ 見たのは初めてだった
ヤンプ地イトゥ市に近
い「ソロカバ市営サッ
カー場」で自主トレー
ニングを行った。

当地はトヨタ自動車
の小型車生産地で、日
本に留学研修したこ
のである岩手出身者の
子弟・阿部貴司アイレ
スさんも勤務してい
る。

日本の練習に熱く声援

優勝目指しがんばれ

こので、約1時間半の自
主トレーニングはとて
も楽しかった。
W杯でブラジルは、
これまで5度優勝して
いるが、私はこのうち
3度優勝シーンを見て
いる。1度目は1997
年の時。アメリカ大会で
24年ぶりに優勝。3度
目は2002年の日本
と韓国の共同大会で、
わがブラジルはロナウ

放送が始まり、自宅に
カラーテレビがなく、
伯父の家で見た。イタ
リアとの決勝戦は今で
ちろんブラジルに優勝
してほしいが、ブラジ
ルが予選落ちすれば、
日本が優勝してほしい
と思っている。
日本 がんばれ!!

日本の練習には、前
日にチケット3枚を手
入れ、妻エミリア
(45)、長男正樹ファビ
オ(20)と一緒に見学し
た。スタンドは日本か
ルで初のカラーテレビ

2度目は、私が30歳
の時。アメリカ大会で
24年ぶりに優勝。3度
目は2002年の日本
と韓国の共同大会で、
わがブラジルはロナウ
ド、リバウドの活躍で
優勝した。
私と、サッカーの詳
しい息子は、ヨーロッ
プで活躍する本田圭
佑、香川真司、長友佑
都選手に注目してい
る。この記事が掲載さ
れる15日(日本時間)
は、日本対コートジボ



Vサインして日本選手団の練習を見学す
る(手前左から) 多田孝則マウロさん、
妻エミリアさん、長男正樹ファビオさん。
3人とも日本代表ユニホームを着て声援
を送った。8日、ブラジル・イトゥ市近
郊のソロカバ市営サッカー場

(日曜日に掲載)

ブラジル県人会発・W杯だより ③ ① 千田曠暁会長の寄稿は各試合前の稿です。それぞれ試合前の現地の準備とか受入れ体制（日本選手団やサポーター）と機運など写真を交えて構成されました。② から留研究生とか役員の寄稿と頼まれ、早速多田孝則マウロ副会長へ寄稿を頼む。丁度6月8日日本チームがソロカバ蹴球場で自主練習が公開された。現地在住者や日本のサポーター、サンパウロから選手団を一目見ようと約5000人が駆けつけた。③ は元留学生で理事の山口（旧姓山口）セシリアさんをお願い。ブラジル対メキシコ戦や日本人サポーターの美德を書いて頂き、在住日系人として誇りの素晴らしさが認識されました。



私にとつてのサッカーは、素晴らしいイベントです。ワールドカップ（W杯）大会は、4年に1度の1カ月間、世界が一つになる時と感じます。わがブラジルでは、大会が始まると、お店やレストラン、バー、車、家など、ありとあらゆる窓にブラジル国旗を飾ります。国民は黄色のTシャツを着て、国内がW杯一色に染まります。会ったこともない人とも、互いに喜んだり、泣いたり、叫んだり。サッカーの祭典を楽しむ

ブラジル県人会発
サッカーW杯便り



③



セシリアしのぶ山口さん

せしりあ しのぶ やまぐち
旧姓は長野。祖父勇一さん、祖母スギさんは1930年花巻市笹間からブラジルに渡る。日系3世。90年に県費留学生として岩手大人文社会科学部に1年間留学し、経済学を学んだ。現在は日系企業の丸紅ブラジルに勤務。長崎県出身でエンジニアの夫山口政和さん（56）、サンパウロ大生体臨床医学部2年の長女安里さんと3人暮らし。49歳。サンパウロ市在住。

お国柄表れる応援風景

日本人の姿勢に感心

学校は休みとなり、労働者の場合は早めに仕事を終わらせて応援し

今回は1950年以降、各国のサポーター。来64年ぶりにブラジルの応援風景にはそれぞれのお国柄が表れていますが、何よりも日本を尊ぶ。1度目のブラジル大会は開催されてい

でウルグアイに2対1で負けました。今大会は、注目されている選手がたくさんおり、素晴らしい試合です。素晴らしい試合



自宅近くのパン屋でブラジル対メキシコ戦を観戦するセシリアしのぶ山口さん（中央）現地時間17日、サンパウロ市内



W杯ブラジル大会を記念して特大サイズのサッカーボールが飾られているメトロ（地下鉄）イタケラ駅＝サンパウロ市内

ブラジル岩手県人会発・W杯だより ④ は、副会長の田口精基さん。田口さんは現地コレジオ（高校）の生徒達を2回にわたり、岩手県に引率して地元高校生と親善交流試合や地域住民の方々との交流の経験など、当時日本にはサッカーのプロチーム（Jリーグ）が無い時代を振り替えて纏めてくれました。



ブラジル県人会発

サッカーW杯便り



④



田口精基さん

たくち せいき 祖父勇之進さん、父信二さん、母あさ子さんから家族15人は1934年に金ヶ崎町からブラジルへ移住。サンパウロ州奥地の開拓地に入植し、農業に従事した。自身はブラジルで生まれた日系2世。サンパウロ州立総合大物理学科を卒業後、長年銀行に勤め、サンパウロ市中心部のコレジオ・サンルイス高で教師も務めた。妻アパレシーダさん(65)、長女アナリザさん(24)と3人暮らし。ブラジル県人会第2副会長。68歳。サンパウロ市在住。

世界32カ国が参加し、ブラジル国内12会場で繰り広げられているサッカー・ワールドカップ（W杯）は30日（日本時間29日）、いよいよ決勝トーナメントが始まります。私はサッカーが大好きで、さまざま試合を観戦しました。

試合観戦後の市民

日本見習いごみ拾い

ルイス高の生徒22人を連れて、遠野市、金ヶ崎町、山田町、盛岡市高1年だった浅沼幸幸（とよぬまゆきゆき）さん、カー留学した遠野市出身です。日本がW杯連続5度目の出場を果たしたことを当地の日系2、3世も大変喜んでいました。サンパウロ市内のビラ・マダレーナ区は、若者が多く集まる場所ですが、ブラジル最終予選を観戦した人たちはぜひ飛躍してほしいとの思いです。（談）（日曜日に掲載）

今思い出すのは、日本にまだJリーグがなかった時代の1992年と94年にサンパウロ市内のコレジオ・サン

交流を通して当地の若い世代に日本の文化を伝え、岩手の高校生にブラジル文化を伝えること、Jリーグが発足したことを思い出し、さまざま国際試合を経験するまでになりました。こうした行

本で交流できたことを感謝しています。また、93年から1年間、サンパウロへサッカーチームで活躍していることをうれしく、進歩したなど感心して

間、サンパウロへサッカーチームで活躍していることをうれしく、進歩したなど感心して



サッカー元日本代表の中田英寿さんがプロデュースしたカフェで日本対コロンビア戦を観戦する日本人サポーターら。前半終了間際に同点に追いつき、盛り上がる。店内では二戸市の地酒・南部美人も紹介していた=24日、サンパウロ市内でサンパウロ新聞・倉茂孝明記者撮影

ブラジル県人会発



⑤

サッカーW杯便り



佐々木憲輔さん

ささき けんすけ 1960年、13歳のときに父母ら家族6人でブラジルへ移住。商業をしながら妻マリナさん(68)との間に1男2女を設けた。ブラジル県人会相談役。盛岡市高松出身。68歳。サンパウロ市に隣接する工業都市サンベルナルド市在住。

サッカー・ワールドカップ(W杯)決勝トーナメントもいよいよ終盤に入り、各国の活躍が楽しみです。それにしても、1次リーグで日本が敗退したのは残念でした。サンパウロ市内で日本戦をテレビで見ましたが、チームワークのよさは逆に、いざというときの決定力が欠けていたと思います。

サポーターが試合後にスタンドでゴミを拾う姿は、当地のテレビや新聞紙上でも大きく称賛されました。日本人

準々決勝の日

日系最大祭典も熱く

のモラルのよさが、広く報道されたことを日系人として誇りに思います。ありがとうございます。

サンパウロ市内では4日から6日まで日系最大の祭典「フェスティバルドウジャポタ」

当地の新聞によると、日本人関係の犯罪被害等の状況は6月末までに保護(迷子)56件、強盗被害6件、窃盗被害23件で、旅券紛失などの相談が23件あ

「日本祭」が開催されます。祭典は日本都道府県人会連合会が主催します。年一回、毎年20万人近い人でにぎわいます。今年47都道府県の

うち、43都道府県人会と慈善団体が参加予定で、岩手県人会からは三陸産ワカメを使った「三陸わかめうどん」、マンジョカ(熱帯で栽培される芋)を使ったコロッケ弁当、二戸市の地酒・南部美

表される情熱的な土地柄だけに、「燃えすぎます。」

(日曜日に掲載) (談)



ブラジル対チリ戦をテレビで観戦し、PK戦の末、3対2でブラジルが勝利した瞬間、歓喜する岩手県人会の若者たち。サンパウロ市内のブラジル県人会館内

ブラジル県人会発・W杯だより ⑥ 最終版は千田会長ですが、回を重ねると書くネタが少なくなり、この連載を邦字紙に提供。「新しい母県との交流」にと云ったコメントあり。W杯を契機に国々からのサポーターとブラジル人との幅広い交流がなされた。最後にこの寄稿に協力頂いた皆さんに厚く御礼申し上げます。

ブラジル県人会発 サッカーW杯便り⑥



千田曠暁さん

ちだ ひろあき 1957年9月、16歳のときに家族とブラジルへ移住。3年間の農業経験の後、46年間クリーニング業に従事した。現役を引退した後は、ブラジル県人会の事務、管理などを手伝い、98年から同県人会長。妻照子さん(72)と2人暮らし。サンパウロ市在住。73歳。金ヶ崎町出身。

岩手日報紙上の「ブラジル県人会発 サッカーW杯便り」も今回が最終回。この連載が当地の邦字新聞2紙で「新しい交流につながるだろう」と紹介されました。今回の企画が母県・岩手とブラジルの「懸け橋」になれたのなら、この上ない喜びです。

日系団体の支援活動

さまざまな交流展開

岩手出身者や他県の人、中には祖父母や両親が岩手出身という人もいました。訪問料、情報を提供しました。岩手や日本からの旅行者には、各都道府県岩手出身者や他県の人、中には祖父母や両親が岩手出身という人もいました。訪問料、情報を提供しました。

サッカー・ワールドカップ(W杯)で、わがブラジルは準々決勝で主力のネイマールが負傷。準決勝はドイツとの情熱的とも言える激しい国民性につながっていると言えそうです。ブラジルに貢献度の高い日本人、日系人に対しては、尊敬心が強く、親目的でもあり



た。ブラジルサッカーファンは勝っても負けながらも、相手サポーターと騒ぎを起こすのが常です。情操教育の差がブラジルの情熱的とも言える激しい国民性につながっていると言えそうです。ブラジルに貢献度の高い日本人、日系人に対しては、尊敬心が強く、親目的でもあり



9日(日本時間8日)のサッカーW杯準決勝のためブラジルのユニフォームを着て地下鉄で会場に向かうサポーターら。この後、ブラジルはドイツに1対7の歴史的な大敗を喫する。ブラジル南東部のペロオリゾンテ